



# RUNNER

## 目次

活動の現場 …2

足輪プロジェクト …7

<野生動物痕跡調査団>

年間調査報告 BeasTrace2019 年度版  
+ BeasTrace NEWS… 8

ユリカモメも換羽する春が来た …10

～ On your side ～

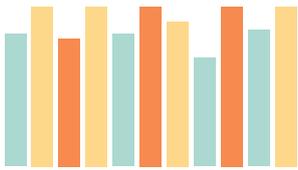
人以外にも思いを寄せて  
何故ならば人から発生した  
ウイルスだからである …12

2019 年度事業報告・

2020 年度事業予定 (案) ……14

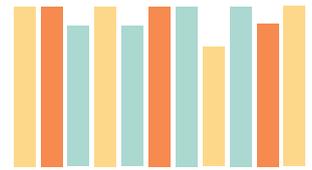
インフォメーション …18





# 活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。

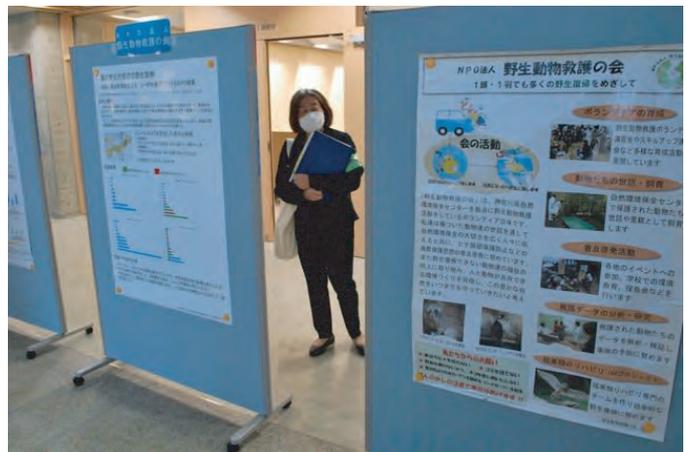


## 2019年度 丹沢大山自然再生活動報告会に参加しました

12月14日（土）に日本大学で開催された丹沢大山自然再生活動報告会に、野生動物救護の会の痕跡調査チーム「BeasTrace」がポスター発表を行いに行ってきました。この報告会は、丹沢大山自然再生委員会の主催で毎年開催されていて、BeasTraceは去年に続いて2回目の参加となりました。基調講演では、羽山委員長とセンターの羽太部長が丹沢大山自然再生計画の15年間の歩みを振り返り、これまでの成果と今後の課題についてお話をされました。シンポジウムでは、丹沢のシカ問題、人工林の管理、登山者のオーバーユーズと自然保護の問題について神奈川県担当者による講演が行われました。また、基調講演とシンポジウムの合間に大学の研究者や市民団体が調査研究や自然保護に関する成果をポスター発表しました。

戦後に荒廃した丹沢大山の自然を復活させるために始められた再生活動は、多くの人々の努力によって実を結び始めているようです。シカの管理捕獲やシカ柵の設置により林床の植物層が再生し、水源林の整備が進み野生動物たちの生息環境も改善されつつあります。しかしながら新たな問題も生まれてきています。地球温暖化による環境の変化がブナ林の再生を妨げるとともに台風による水害ももたらします。SFTS（重症熱性血小板減少症候群）のような感染症を媒介するマダニや豚コレラに罹患したイノシシが丹沢に侵入する可能性も懸念されます。丹沢大山の自然を復活するために行ってきた再生活動は、人間と自然のより良い共生を実現するための活動にシフトチェンジする時期が来ているのかもしれないと、委員会の先生方が話されていました。BeasTraceのメンバーも人と野生動物のより良い共生を目指して、微力ながら調査研究を続けていきたいと思えます。

遠藤順一



## 大掃除の報告

昨年12月14日、自然環境保全センターで毎年恒例の（豚汁大会もとい）傷病舎大掃除が行われました。お天気も良く、多くのボランティアの皆さんが参加されました。今回のテーマはずばり「断捨離」。それぞれいくつかの持ち場に分かれ、傷病舎や治療室、外のケージからボランティア室まで、普段使われていないものも片づけることができました。（皆さん和やかな雰囲気、途切れない会話の中で楽しく作業していました。）そして掃除の後はお待ちかねの豚汁！もつ煮や皆さんからの豪華な差し入れも加わり、楽しい交流会になりました。大掃除に参加された皆さん、ありがとうございました。

春田裕美・千紘



## 日立ITエコ実験村見学会を開催しました

2019年12月21日（土）、秦野市千村にある日立ITエコ実験村を見学しに、救護の会の会員や救護ボランティアの方たちと一緒にってきました。この実験村という場所では、地元自治会やボランティア団体、大学、企業で構成される運営委員会とボランティアの人たちによって、森林管理や休耕田の再生、生き物の保全活動が行われています。

遠藤順一

事務所では日立の野口さんからITエコ村で行われている事業の説明を受けました。



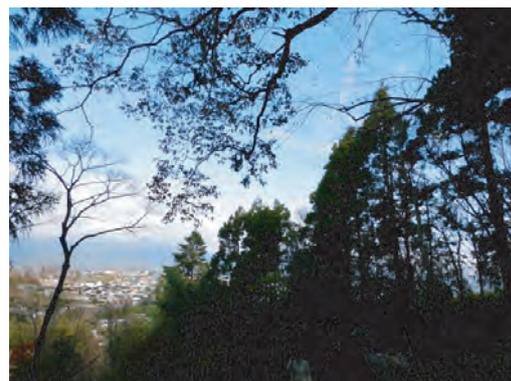
一番右の女性が施設を案内してくれた日立の大橋さんです。

施設に設置されている調査機器。一番上の白いキノコみたいなのが温度計、その下のボックスが通信機能付きセンサーカメラ（欲しい!!!）



なんと小川で水力発電もしていました。出力は数ワットだそうです。

竹藪を伐採して広葉樹林を再生させている場所。とても見晴らしが良い。



このように森林を整備することで、秦野のおいしい水は守られているんだらうな。

## 秦野市立西小学校での環境教育「はだのエコスクール」の報告

令和2年1月21日(火) 10:40～12:15、3年生3クラス(99名)を対象に、『野生動物と共に生きる』をテーマに体育館で環境授業をおこないました。

### ★野生動物ってなあに？(30分)

はじめに、うちわの色(白と緑)を使って2択のクイズ形式で出題し、動画を見ながら身近な野生動物について学んでもらいました。第1問：タヌキ足跡はどっちだ？答：4本指、第2問：泥浴びが好きなのはどっちだ？答：イノシシ、第3問：冬眠するのはどっちだ？答：ツキノワグマ、第4問：シカの好きな食べ物はどっちだ？答：○草木 次に、ニホンジカが増えているか、減っているかを子どもたちに尋ねました。増えている！続いて、ニホンジカが増えていることが、「どうでもいいのか！」子どもたちに考えてもらうために絵本の読み聞かせをおこないました。①なんでニホンジカが増えると困るか？—自然のバランスが悪くなる。植物がなくなると、たくさんの虫や動物が生きられなく。交通事故などが起き、シカの命も人間の命も危険に合う。ハゲ山だらけになり、綺麗な景色が見られなくなる。→ニホンジカが増えることは「どうでもよくない！」。②なんでニホンジカが増えているのか？—山で暮らす人が少なくなった。猟をする人が少なくなった。③ニホンジカが増えない様にするには？—あなたのちょっとした行動で未来をかえよう。例えば、こんなことでもいいです。自然のことを気にして見る。だれかに話してみる。山の中で遊んでみる。ニホンジカを食べてみる。→今、出来ること、身近に出来ることをやる。

### ★傷つく野生動物たち(どうして野生動物は傷つくの？)(25分)

野生動物の保護原因をパワーポイントで見てもらい、それについて学んでもらいました。ケガ・病気などで傷ついて保護される野生動物は哺乳類より鳥の方が多い。その保護原因は①ガラス窓への衝突、②ネコによる被害、③巣立ち雛の誤認保護、④網・釣糸にかかる、⑤交通事故、⑥病気、⑦海のゴミなどの人為的原因。これは「どうでもよくない！」。人為的原因に対し、みんなが少しだけ気をつければ、傷つく野生動物たちを減らすことができる。→今、出来ること、身近に出来ることをやる。

### ★野生動物展示ミニツアー(30分)

6グループに分かれて、「ふれあい動物(①タヌキ、②フクロウ、③オオコノハズク、④チョウゲンボウ)」「⑤鳥類展示(メジロ・スズメ・ヒヨドリの写真・羽根標本・巣、ツバメの全身骨格標本)」「⑥哺乳類展示(ニホンジカ・イノシシの頭骨標本(オス・メス)と足の剥製、ニホンジカ・エゾシカの角)」の6つを、スタート地点を変えて5分ずつ順番に回って見てもらい、間近に見て触れてその動物の特徴などについて学んでもらいました。

そこではスタッフは説明をし、質問を受けました。子どもたちからは、たくさんの質問が飛び、時間が足りないほどでした。子どもたちの好奇心は素晴らしいと、いつも思います。

子どもたちは、この前に学校の授業で「人と動物とどちらが大切か？」を学んだ。命あるものは共に大切！そこで先生の申込から今回の授業をおこなうことになった。「野生動物と共に生きる」には、まず野生動物について知ること、興味・関心を持つことが大切。また「野生動物と共に生きる」ためには、野生動物のために今、出来ること、身近に出来ることを考え、それをやるのが大切なことを子どもたちに伝えることが出来たと思います。

小野茂生

### ◆授業風景◆

★野生動物ってなあに？



★傷つく野生動物たち



——野生動物  
展示ミニツアー——

★タヌキ



★フクロウ



★オオコノハズク



★チョウゲンボウ



★鳥類展示



★哺乳類展示



比々多小学校～ハートフル委員会 環境教育の報告

2月4日(火) PM2:45～3:35  
5年、6年生 21人 先生 3人 と校長先生

ハートフル委員会とは、心の温まる活動を目指しているそうです。  
今回、救護の会に声がかかったのは、「野生動物」に私たちに  
何ができるか!?という問いかけでした。

- ①傷つく野生動物たちの現状
- ②ガラス窓への衝突はなぜおきるのか  
などをパワポで説明して、
- ③衝突を少しでも防ぐための、「UVカット」のシールの紹介  
本当は、実際に作ってもらいたかったのですが、時間ぎれのためシールはおみやげに
- ④エディケーションハードのフクロウ(ウィズリー君)  
紹介して、みんなに触れてもらいました。



時間が足りなくてバタバタしてしまいましたが、委員会のみなさんに少しでも「心」に残るものが  
あれば～私たちも今後の活動にはげみになります。

わたなべ



比々多小学校ハートフル委員会委員会のみなさんから、感想が届いています。一部紹介させていただきます。

フクロウにさわられたし、  
救護のことが勉強になりました。  
家にシールを貼ったら、  
ガラスに衝突する鳥が  
来ないようになった。

動物がたくさん保護されて  
いたり、窓にぶつかったりして、  
かわいそうだと思いました。  
そのことについて話してくれたり  
工夫を教えてくださいまして  
ありがとうございました。

光害など人が  
気をつけることなどを、  
教えてもらってから  
意識するようになりました。  
ありがとうございました。

## 第19回さがみ自然フォーラムに参加

令和2年2月6日から11日まで、あつぎ市民交流プラザ（アミュあつぎ）で開催された第19回 さがみ自然フォーラムに参加しました。このフォーラムは、厚木市民や関係団体の調査・研究活動を通して、生物多様性や自然環境保全の大切さを広く伝えるために行われています。今年は赤とんぼの減少した原因を探る企画展も行われ、愛川町内で実施した調査結果からネオコチノイド系農薬が原因であると、自然環境を破壊する農薬の使用に警鐘を鳴らしていました。その他、御蔵島のオオミズナギドリ繁殖地保護に関する取り組みなど、興味深い発表が多数行われました。野生動物救護の会は、人と野生動物のより良い共生を実現するために取り組んでいる活動についてパネル展示と活動報告を行いました。パネル展示では野生動物の救護活動やバードストライク防止への取り組みに加えて、痕跡調査班（BeasTrace）の実施した厚木市七沢に生息する野生動物の生態調査の結果をまとめたポスターを展示し、水源林の中には多くの野生動物たちが暮らしていること、その水源林を整備して自然環境を保全することの重要性を来場者に訴えました。活動報告では会員の小林夏子さんが、自動撮影カメラを使用した水源林内での鳥類調査の結果を発表しました。厚木市には、日頃から普通に見られる鳥に加えて神奈川県レッドリストに掲載されている希少な鳥類が生息していることを撮影した動画を用いて報告し、聴衆の耳目を集めていました。是非、次回のフォーラムにおいても今回を上回る活動成果を報告し、多くの方たちに野生動物と自然環境の保護に対する関心を高めてもらいたいと思います。尚、痕跡調査班の活動は「もり・みず市民事業支援補助金」を受けて行われました。



遠藤順一

# 足環Project!!

## 足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知る為の活動です。  
詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧下さい。

## ～2019年10月から足環を付けて放された鳥たち～

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所	足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
M8	ツミ	2019年10月	相模原市	N3	カルガモ	2019年11月	川崎市
M9	ツミ	2019年10月	愛川町	N4	オオバン	2019年11月	厚木市
N0	トビ	2019年11月	平塚市	N5	スズガモ	2019年12月	平塚市
N1	スズガモ	2019年11月	藤沢市	N6	フクロウ	2020年1月	湯河原町
N2	トビ	2019年11月	平塚市	N7	チョウゲンボウ	2020年2月	茅ヶ崎市



N7 チョウゲンボウ



N4 オオバン



N6 フクロウ

(写真提供：神奈川県自然環境保全センター)

目撃情報が一般の方から届きました。  
3/26と3/30に茅ヶ崎市内で目撃されたそうです。

こんな足環をつけた野鳥を見かけたら下記まで連絡してください。



## NPO 法人 野生動物救護の会

Tel : 0463-75-1830 e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 Tel : 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。  
(放野の光景を動画で見ることができます)

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>



# <野生動物痕跡調査団>

## 年間調査報告 BeasTrace2019 年度版



皆さんは野生動物たちが普段どんな場所でどんな生活をしているかご存知でしょうか？NPO法人野生動物救護の会野生動物痕跡調査チーム BeasTrace(以下 BeasTrace) では神奈川県立自然環境保全センター内にある野外施設に生息する野生動物の種類や生態を解明しようと活動しています。

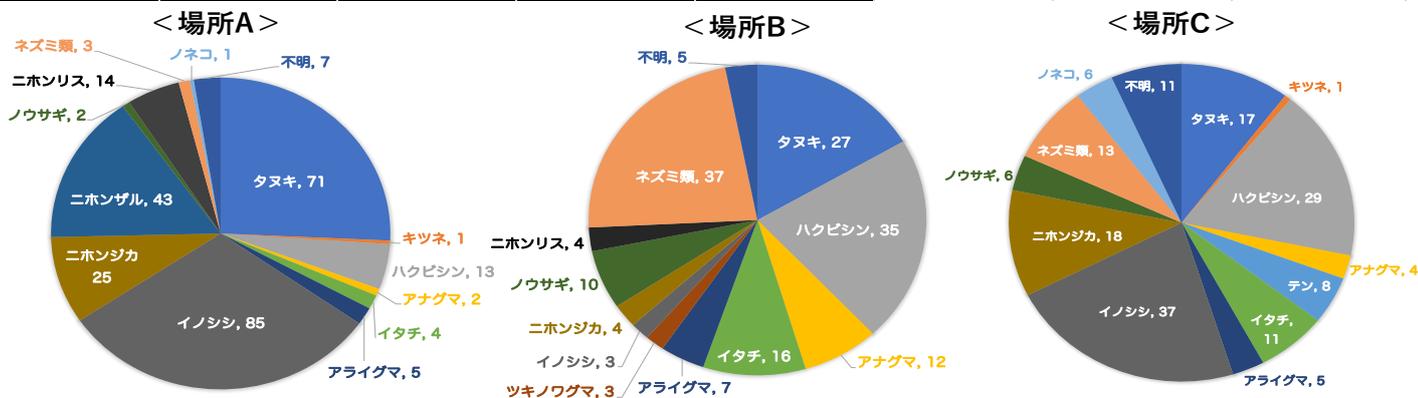
こんにちは、調査員の小林です。外出自粛等で自然の移り変わりに気づかず、いつの間にかツバメが大空を飛び回る新年度になっていました。早く今までのような生活が戻ることを祈るばかりです。

さて、今回は 2019 年度の調査報告と前回からお伝えしてります、BeasTraceNEWS より新プロジェクトに関する大大大トピックをお届けいたします。

2019年4月12日から2020年1月7日までに  
自然環境保全センター内に設置した3台の自動撮影カメラにて撮影され種を識別できた哺乳類は

**全13種**(ネズミ類、ノネコ、ノイヌを除く) 詳細は以下である

食肉目							
1.タヌキ	2.キツネ	3.ハクビシン	4.アナグマ	5.テン	6.イタチ	7.アライグマ	8.ツキノワグマ
鯨偶蹄目		霊長目	兎目	齧歯目			
9.イノシシ	10.ニホンジカ	11.ニホンザル	12.ノウサギ	13.ニホンリス			



神奈川県レッドデータブック 2006 WEB版における記載種の紹介(以下は実際に撮影された写真)

イタチ(準絶滅危惧)



ニホンリス(準絶滅危惧)



キツネ(準絶滅危惧)



ツキノワグマ(絶滅危惧I類)

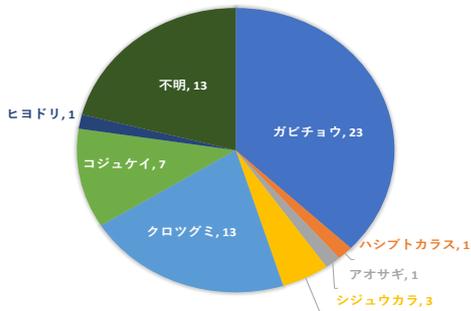


2019年4月12日から2020年1月7日までに  
自然環境保全センター内に設置した3台の自動撮影カメラにて撮影され種を識別できた鳥類は

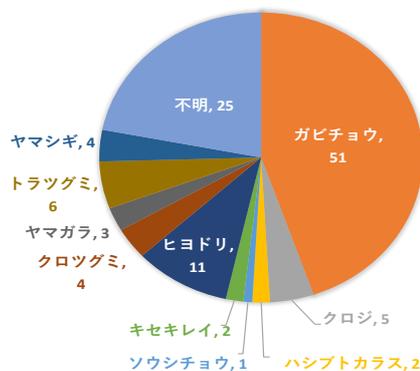
**全26種** 詳細は以下である

1.アオサギ	2.アカハラ	3.ウグイス	4.エナガ	5.カケス	6.カシラダカ	7.ガビチョウ
8.キジバト	9.キセキレイ	10.キビタキ	11.クロジ	12.クロツグミ	13.コガモ	14.コジュケイ
15.サンコウチョウ	16.シジュウカラ	17.シメ	18.シロハラ	19.ソウシチョウ	20.ツミ	21.トラツグミ
22.ハシブトカラス	23.ヒヨドリ	24.メジロ	25.ヤマガラ	26.ヤマシギ	(五十音順)	

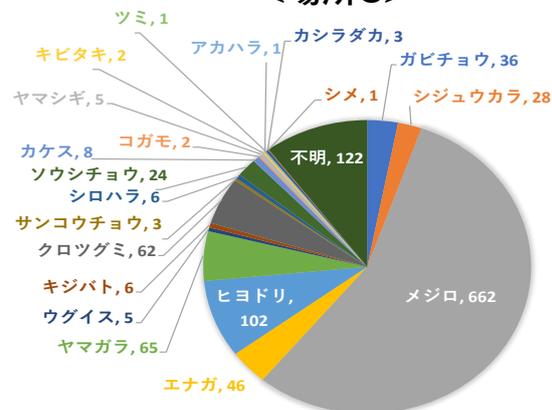
<場所A>



<場所B>



<場所C>



神奈川県レッドデータブック 2006 WEB版における記載種の紹介(以下は実際に撮影された写真)

アカハラ (減少種)・キセキレイ (減少種)・キビタキ (減少種)・トラツグミ (減少種)

クロジ (絶滅危惧Ⅱ類)・クロツグミ (絶滅危惧Ⅱ類)

サンコウチョウ (絶滅危惧Ⅱ類)



ツミ (絶滅危惧Ⅱ類)

ヤマシギ (希少種)



BeasTrace NEWS <新プロジェクト 巣箱計画② ~早くも来客が!?!~ >

前回記事から始まりました、新プロジェクトの巣箱計画の最新情報をお届けします!

11月2日に巣箱A・B・Cの3台を設置してからわずか28日後、巣箱Aに来客者が訪れました。11月30日22時31分、巣箱の様子を伺うように現れたのはなんと『ムササビ』でした。巣箱計画が始まる前、設置場所の持ち主の方は「昔はムササビの声や滑空する姿を見たが、ここ最近では姿どころか鳴声すら聞かなくなった。」と話していました。生息している可能性は十分にありましたが、樹上生活のムササビはセンサーカメラにも映らず、痕跡も発見できずにいました。しかし今回の調査により、現在もこの山にムササビが生息していることを証明できました。11月30日以降数日間、巣材を運んだり、その子どもと思われる個体も同時に確認されたりとムササビによる巣箱の利用が開始されたことがわかりました。(現在も継続している様子)

また巣箱Bにも3月6日に確認する様子がみられ(巣箱Aと同個体かは不明)、3月21日の調査ではカメラ回収中に警戒して巣箱から顔を出す様子も直接確認されました。巣箱設置開始から数ヶ月でこのような結果になったのは、やはり利用できる樹洞が不足しているためではないかと専門家の方も話していました。

また私たち BeasTrace は樹洞の提供を目的としているため、利用動物を保護するための天敵を近づけない等の対策を一切行っていません。そのため、巣箱のすぐ近くをハクビシンが登る様子なども確認されています。近年の研究では巣箱の設置が逆に生態系を崩してしまうとも聞かれます。失われた自然の再生と野生動物との生態系についてよく考えながら今後もこのプロジェクトを継続していきます。

今回使用した写真は白黒で動物や足跡がわかりにくいと思います。野生動物救護の会公式ホームページでは見やすいカラー写真で掲載されています。ぜひそちらもご覧ください。次回もお楽しみに!!



## ユリカモメも換羽する春が来た

鳥類の体はたくさんの羽毛におおわれています。胴体をおおっている羽毛は、フワフワして柔らかく空気をたくさん含むことができ、熱を外に逃がさない働きをします。冬の水鳥たちが冷たい水に四六時中入っていても平気な顔をしているのは、フワフワな羽毛が彼らの体を高密度でおおっているからです。一方、鳥の翼には堅い丈夫な羽毛が生えています。この堅い丈夫な羽毛は、鳥が空を飛ぶために必要な揚力（重力にさかかって物体を上を上げる力）を生み出すための翼を形作ります。名古屋名物の手羽先は、翼の先端部分（掌から指の部分）から肘の部分までの羽毛を全部抜いた状態の骨付き肉を調理した食べ物です。使われている手羽先肉は鶏のものですが、羽毛が生えていれば立派な翼になります。羽毛は、鳥類が生命を維持するために欠くことのできないアイテムなのです。

哺乳類は、鳥類とは異なり体を体毛でおおわれています。日本のように夏は暑く冬は寒い国に生息する動物は、夏に体毛の密度を下げ、冬に密度を高くして気温の変化に順応します。また、皮膚から分泌される皮脂や紫外線、害虫の影響によって体毛が汚れて傷んでしまえば本来の機能を発揮できません。鳥類の羽毛についても同じことが言えます。羽毛が汚れたり傷んでしまったら、鳥は体温を保てず飛べなくなって死んでしまいます。定期的に生えかわらせて新品と交換する必要があるのです。

多くの鳥は年に2回の換羽を行います。換羽には、体中の羽毛がすべて生えかわる完全換羽と風切羽や初列雨覆、尾羽以外の羽毛が生えかわる部分換羽があります。年2回の換羽を行う鳥では、繁殖期の前の春の時期に部分換羽、繁殖期終了後の秋の時期に完全換羽を行うと考えられます。

春を迎えてセンターの鳥カフェに暮らすユリカモメは、繁殖期前の部分換羽を開始しました。冬のユリカモメは真っ白な頭をしていますが、夏の繁殖期を迎えると真っ黒な頭のカモメに変身します。部分換羽はあっという間に終了してしましますが、秋の完全換羽は100日程度かかるようです。ガン黒のユリカモメは、毎日のように鳥カフェで繁殖の相手を探してギョエ！ギョエ！ギョエ！と雄叫びを上げています。皆さんにも見てもらいたいところですが新型コロナウイルス感染症の影響でセンターは4月4日から8月まで臨時

2020年3月30日撮影



2019年9月23日撮影



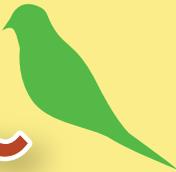
休館になってしまいました。春の羽根標本展も3月29日から展示を始めましたが皆さんに見ていただけないのが残念です。この騒ぎが早く収束して皆さんがセンターに足を運べるようになる日を心待ちにしております。

この記事は羽根のお話とは別件ですが、皆さんはセンターの傷病鳥獣の受付に野生動物救護の会の募金箱が置かれているのをご存じですか。毎年、多くの方々がたくさんのお金をこの募金箱に入れてくださいます。もちろん集まったお金は傷ついた野生動物たちのために使われていますが、最近では鳥用のビタミン剤を購入して野生動物救護の会からセンターに寄付をいたしました。鳥たちが元気になるために役立てば良いと思います。



購入したビタミン剤

センターで冬を越したツバメたち。たくさん餌食べて元気になれ！！



# ～ On your side ～



## 人以外にも思いを寄せて 何故ならば人から発生した ウイルスだからである

ボランティア歴 18 年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが  
ら日々思うことを文章にしてみました。

今年初めてのランナーへの掲載です。これからもどうぞよろしくお願い致します。

稚拙な文章に苦笑いをしつつ目を通して下さっている方々も多いでしょうが、しかし私のコラムでこれから少しでも環境や動物たちに興味を持ち、ご自身で出来る何らかの行動を考え実行して下さい下さる方々が1人でも増えて下さる事を願ってやみません (\*^o^\*)

ところで話は変わり最近現在世界的に大問題になっているコロナウイルスだが、、、各国で悪戦苦闘している多くのそれぞれの職種の方々には誠に申し訳ないが1つだけ本当に心から良かった～とホッとしているのがこのコロナウイルスが動物からの感染症ではない事である。

環境や動物を大切に思って下さるの方々にはその心情はご理解頂けると思う。今までの例を見ても世の中に何らかの感染症が流行した時、それが動物からのものだと解るや否や殺処分というある意味人間側の一方的な殺戮が横行してきた。動物を野生に返す活動を十数年に渡ってささやかだが続けて来たからこそ、人は人を守るために色々な手を尽くすが動物たちに対する解決策が殺処分のみの対応が大半である事に憤りを禁じ得ない。動物たちの命を軽視し人間の事しか考えていないからだ。

人は安心安全のためには多くの使い捨ての便利用品を惜しげもなく生産し消費しゴミを増やす。それはケースにもよるが、動物たちに同じ様に感染症が見つかった時に一方的に悪者にしたり殺処分したりする対応についてはどうやっても賛同出来ない。だからこそ一刻も早くその道の専門家の方々に人にも動物たちにも有効なワクチンを開発して欲しいと願うのである。



イギリスで特に鳥インフルエンザに対するワクチンが開発途中だという。よろしく、本当によろしくお祈りしますと祈るような気持ちで一杯である。

更には東京オリンピックが延期になった。曲がりなりにも一応医療従事者なのであの感染の勢いでは世界中に蔓延するのは時間の問題だとは思っていてオリンピック開催も今年は無理だと確信していた。しかし一般的にはいつどこにコロナウイルスが舞い込んで来るかわからない以上発生したらその時にどうするか決定するしかないだろう。オリンピックまで延期したこの騒ぎの中で香港でコロナウイルスに感染した飼い犬が出たとのニュースを見てえもいわれぬ嫌な予感が走った。もちろんその子を捨てる行為に走る飼い主が後を断たず、街中が捨てられた動物だらけになる事態に陥るのではあるまいかという事である。

人は捨てないが動物なら放り出すという勝手なその行動への不安だ。捨てられたその子に待っているのは殺処分される事だけであり人の様に手厚いケアにより回復するなど有り得ない。しかしそういった事態になるのも時間の問題なのではあるまいかと物凄い懸念がある。

コロナウイルスは最早人だけの問題ではない。動物たちと最前線で関わる獣医師の方々、動物園やペットショップで働く方々、そして犬だけでなく動物を飼っている方々、動物であっても家族であり地球に生きる大切な命。動物たちもコロナウイルスから守ってあげて頂きたい。動物たちにも命があり生きる権利がある。人と生きてきた動物やそうでない子たちにも言葉が話せないだけで病気の苦しみや捨てられた悲しみもあるのだ。感染したからと手放したり放り出したり絶対にしないで欲しいと切に願う。

本当に、本当に心からのお願いである。そして1日も早いコロナウイルスの収束も祈りたい。～命ある全てのものをコロナウイルスから守るのは人の義務である。動物たちや環境のために～  
On your side 人以外にも思いを寄せて 何故ならば人から発生したウイルスだからである



# 2019 年度事業報告

## 2020 年度事業予定(案)

2020 年 4 月より新年度がスタートしておりますが、昨今の新型コロナウイルス禍による各種活動の自粛要請に伴い、弊会でも通常の運営が出来ない状況にあり、もどかしい思いを抱えております。会員の皆様におかれましても不安な日々をお過ごしかと思います。くれぐれもご自愛ください。

今年度は新たな助成金を獲得し、益々勢力的な活動を予定しておりましたが、残念ながら何件かのイベントは中止となってしまいました。しかし、長年継続して行っている衝突調査に加え、近年では痕跡

調査や樹洞性哺乳類・鳥類調査など様々な新しい取り組みにも挑戦しており、このような状況ですができるだけ充実した活動にしたいと考えています。

7 月に予定されている定期総会では、昨年度の総括や今年度の事業内容について活発に論議していただきたく、ここに前年度の活動報告と今年度の活動予定を掲載します。皆さまには是非目を通していただき、ご検討をお願い致します。

今年度も皆様のご協力・ご参加を心よりお待ちしております。

### 2019 年度 NPO 法人野生動物救護の会 事業報告

#### 1. 傷病鳥獣救護の直接的事業

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
M プロジェクト (猛禽類のリハビリ)	通年	プロジェクト参加者自宅

#### 2. 救護ボランティアを養成する事業

野生動物救護ボランティア講習会	6/15 6/16	自然環境保全センター
野生動物救護ボランティア講習会修了式	9/29	自然環境保全センター

#### 3. 主に会員を対象とした啓発事業

探鳥会	1/14 小田原漁港周辺(雨天中止)	2/16 宮ヶ瀬湖周辺(雨天中止)
夜のムササビ観察会「空飛ぶ座布団の正体とは」	6/29 8/10	大雄山最乗寺
日立エコ村見学会	12/21	日立エコ村
野生動物痕跡調査講習会	8/31 2/15	自然環境保全センター
スキルアップ勉強会	9/7 10/26 11/30	自然環境保全センター

#### 4. 主に市民を対象とした啓発事業

企画展示 みんなの知らないツバメの世界	5/1~7/28	自然環境保全センター (ブナの森ギャラリー)
人と猛禽類の関係	5/28~8/31	自然環境保全センター (鳥獣保護棟入口)
誤認保護防止のためのチラシ配布 (伊勢原緑化祭り)	5/11~12	伊勢原市立総合運動公園
各種イベントへの参加		
イベントのためのグッズ作製	8/24	自然環境保全センター
よこすか動物フェスティバル、	10/6	三笠公園
厚木市環境フェスティバル	10/20	厚木市中央公園
秦野市民まつり	11/3	秦野市文化会館周辺
動物フェスティバル・神奈川	11/24	寒川町民センター
第 19 回 さがみ自然フォーラム	2/6~11	アミュー厚木
もり・みずイベント	10/13 (中止)	座間イオンモール

環境教育	秦野エコスクール 南小学校	11/12	秦野市立南小学校
	西小学校	1/21	秦野市立西小学校
	比々多小ハートフル委員会	2/4	伊勢原市立比々多小学校
夏休み子ども体験教室（野生動物を学ぶ）		7/27	自然環境保全センター
春休み子ども体験教室（わくわく生き物探検隊）		3/28（中止）	自然環境保全センター

#### 5. 情報発信的事業

会報誌RUNNERの発行	4/21（32号）9/29（33号）12/22（34号）	厚木市サポートセンター
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

#### 6. 調査・観光的な事業

秦野市立図書館衝突調査	4/26 5/31 6/28 7/26 8/30 9/27 10/25 11/29 12/27 1/31 2/28 3/27	秦野市立図書館
図書館センサーカメラ設置	11/13	秦野市立図書館
羽根標本等の標本作成	通年	自然環境保全センター
樹洞性哺乳類・鳥類調査		自然環境保全センター
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター

#### 7. 関係団体との協働的事業

丹沢大山ボランティアネットワーク総会・助成金報告	4/20	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会 「里山文化の意義と丹沢大山里山再生」	6/29	自然環境保全センター
池の外来種調査と生き物観察	10/20	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	6/5 9/4 12/4	自然環境保全センター
フィールドスタッフ養成講座・第1回自然保護講座 「神奈川県野生動物の現状と救護活動について」	12/7	自然環境保全センター

#### 8. 運営的事業

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5/19	自然環境保全センター
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12/14	自然環境保全センター

#### 9. そのほかの事業

TVK「カナフルTV」野生動物救護現場最前線	取材 5/5 放映 5/19	自然環境保全センター
自然発見クラブでの講習会	6/22	自然環境保全センター
プラネタリウムでの講習会	2/16（中止）	伊勢原市プラネタリウム
第5回 BeasTrace 主催講習会	8/31	アミュー厚木
巣箱の作製	9/28	自然環境保全センター
大山丹沢自然再生報告会	12/14	日本大学生物資源科学部
もり・みずプレゼンテーション	3/8	

## 2020年度 NPO 法人野生動物救護の会 事業予定(案)

### 1. 傷病鳥獣救護の直接的事業

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
Mプロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

### 2. 救護ボランティアを養成する事業

野生動物救護ボランティア講習会	6/7（延期）	自然環境保全センター
野生動物救護ボランティア講習会修了式	年1回	自然環境保全センター

### 3. 主に会員を対象とした啓発事業

探鳥会	年数回	近隣各所
野生動物痕跡調査講習会	年数回	自然環境保全センター
スキルアップ勉強会	年数回	自然環境保全センター

### 4. 主に市民を対象とした啓発事業

企画展示		
誤認保護防止のためのチラシ配布	5/9～10（中止）	伊勢原市立総合運動公園
各種イベントへの参加 よこすか動物フェスティバル、 秦野市民まつり 動物フェスティバル・神奈川 さがみ自然フォーラム その他	各期日	各イベント会場
各種要請による講演	随時	各会場
環境教育 学校からの要請による環境教育 夏休み子ども体験教室（野生動物を学ぶ） 春休み子ども体験教室（わくわく生き物探検隊）	随時 7月（中止） 3月	各学校等 自然環境保全センター 自然環境保全センター

### 5. 情報発信的事业

会報誌RUNNERの発行	年数回	厚木市サポートセンター
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

### 6. 調査・観光的な事業

秦野市立図書館衝突調査	月1回程度	秦野市立図書館
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター

### 7. 関係団体との協働的事业

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/26（中止）	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会	6/20（中止）	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	6/3 予定（9/2 12/2 3/3）	自然環境保全センター
傷病鳥獣保護連絡協議会	未定	未定
自然発見クラブ	2月	自然環境保全センター

## 8. 運営的事業

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5/17 (延期)	自然環境保全センター
救護の会の事務的管理 (名簿・会費・物品など)	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12月	自然環境保全センター

## 9. 各種助成金による事業

サントリー世界愛鳥基金による事業 (20万)	
ボランティア団体活動助成金による事業 (10万)	
もり・みず助成金による事業 普及啓発 (20万) 調査 (27万)	



# インフォメーション

## 定期総会

### ◆第13回 NPO 法人 野生動物救護の会 定期総会

▽日時:7月12日(日)13:00~受付 13:30~総会

▽場所:厚木市社会福祉協議会 ボランティアセンター研修室 4F

## イベント

今年度のイベントは、現段階では開催が未定のものが多数です。

今後、開催及び救護の会の参加の有無が決定しましたら 都度お知らせしますので、

ホームページ等でご確認ください。

## ボランティア講習会

### ◆神奈川県 野生動物救護ボランティア講習会

▽日時:未定

▽場所:自然環境保全センター レクチャールーム

☆例年、6月に開催されていた 新しい野生動物救護ボランティアさんを募集し、

野生動物救護に関する知識を学んでいただく講習会ですが、今年度の開催日は現在のところ未定です。開催の折りには、ふるってボランティアスタッフとしてご参加ください。

## 衝突調査

### ◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は6月26日、7月31日、8月28日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に  
行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

## “救護の会 ブログ” 始まっています！

### ◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや  
報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページの  
「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



\* 詳細は当会ホームページをご覧ください \*

### ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。

どなたでもご参加いただけます

★一般会員:年会費 2,000 円

★学生会員:年会費 1,000 円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています

★賛助会員:年会費 法人一口 5,000 円/個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2020年6月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者:平沼亜矢子・森紀美子・小林夏子・神崎さつき